「気付き」と「学び」の多い９月でした

仲嶺　真弓

【かつての自分を振り返る　　～大人のための懇談会に参加して～】

9/4（日）に開催された、育む会主催の大人のための懇談会に参加しました。今回はアトム・つばさの卒園児に集合してもらい、幼児期の記憶、大人に対する思い、学校生活の思い出や現在の思いなどを語り合うことが目的で、青少年のぶっちゃけトーク＆年代超えてのぶっちゃけトークという内容と、懐かしい卒園児やＯＢ保護者の顔を見られると、当日を心待ちにワクワクしながら参加しました。ホール全面 1 周半ぐらいの椅子が並び、参加した卒園児は小学 1 年生～27 歳の社会人までの多彩な顔ぶれがありました。その他ＯＢ保護者、今回はつばさからの参加者も多く見られたことも嬉しく思いました。また、保育園とは直接の関わりはないけれど、私たちと同じように子どもも大人も共に育ち合いたい、人が育つということがどういうことなのかを問い続けたいという大学教授や学生、かつてボランティアに来てくれた方の参加もありました。

懇談会は、各年代の卒園児の「今どんな思いで日々過ごしているのか」という生の声が聞けたこと、その生の声に対して親は「どんな思いでいるのか」という心配の声も聞きながら、日常では距離が近すぎてなかなかできない親子の言葉のキャッチボールをテンポよく展開させる進行がとても心地よく印象的でした。印象に残った話は幾つかあって、「中学生になってもドラえもんを見続ける娘を見て大丈夫か」という親心に対して、子どもたちからのメッセージは「ドラえもんを見て何がわるいのか。ドラえもんを馬鹿にしないでほしい。年代によって見る視点や考え方が違う」会終了後も「同じアニメなのにドラえもんとワンピースの違いは何なの？」という子どもからの素朴な疑問が聞かれました。確かにそうだと思いながら、かつての学生時代の自分を思い出し、子ども時代の自分は何を考えていたのか…と思い返していました。また、社会人 27 歳になった卒園児は、「保育園は懐かしくて嫌いではないけれど、時々来るのが心苦しくなる。それはここに来るたびに自分は真っ直ぐに、まっとうに前を向いて人生を歩けているかと問われているような気持ちになりどこか後ろめたさを感じる。」その言葉に、大人になったなぁと実感するとともに、卒園児とこんな会話ができることが何よりも嬉しい瞬間であることを噛みしめました。誰に恥じることなく、自分はしっかり自分の人生を歩けているのか？　目を伏せる時があってもいいけれど、時々そんな風に問い返し続けることが大切だということを卒園児と共に再確認できた懇談会でした。

【二園合同の中間総括会議が終わりました】

9/11（日）9：00～13：00　　たっぷり 4 時間かけて中間総括会議をしました。4 時間の内、1 時間は各部署に分かれて半年の振り返りと後半に向けての課題を明確にしました。姉妹園があることをフルに活かせて今よりもより良い保育・給食・看護・事務仕事の充実を目指し話し合いました。残りの 3 時間は市原理事長司会で、「保育士倫理　専門職としての責務を考える」をベースのテーマにおき、今年起こった 2 大ニュースについてのそれぞれ感じたこと、考えたことの語り合いや、外部者からの質問にそれぞれどう応えるかなども語り合い、自分たちの責務は何なのかを考え続ける時間となりました。このテーマはきっと、自分はどう生きるかにも繋がることで、今後も引き続き考え続け、問い続けていくべきことだと思いました。

≪職員の体制について≫

●0・1 歳児クラスに職員が増えています

・〇〇　〇〇さん（7 月～）　・〇〇　〇〇さん（9 月～）　・〇〇　〇〇　さん（9 月～）

●9 月から午睡中の園児の見守り ＋ 清掃　の応援団として地域の方が 2 時間パートできてくれています

・〇〇　〇〇さん　　・〇〇　〇〇さん　　・〇〇　〇〇さん（勤務形態変更）

・〇〇　〇〇さん（10 月～）

※10 月から園児の変動により、石原　恵が 3 歳児担任から 1 歳児担任に異動となります。

年度途中の担任異動は、園としても避けたいところですが、保育園に入りたいのに入れず、待機している家庭がある現状を何とかしたいという判断からの体制です。ご了承ください。